

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年12月26日

【評価実施概要】

事業所番号	0770403103		
法人名	社会福祉法人ハートフルなこそ		
事業所名	グループホームわいの家		
所在地	福島県いわき市植田町小名田13番の2 (電話) 0246-63-1711		
評価機関名	福島県社会福祉協議会		
所在地	福島県福島市渡利字七社宮111番地		
訪問調査日	H20.12.11	評価確定日	H21.1.27

【情報提供票より】(平成20年11月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年 5月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤16人, 非常勤2人, 常勤換算15人	

(2) 建物概要

建物構造	木造合金鋼板ぶき平屋 造り		
	1 階建ての	1 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷 金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,200 円		

(4) 利用者の概要(11月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	15 名
要介護1	1 名	要介護2	4 名	
要介護3	6 名	要介護4	5 名	
要介護5	2 名	要支援2		
年齢	平均 85 歳	最低	57 歳	最高 94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	中村病院、こうじま慈愛病院、佐藤歯科医院
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は、JR植田駅から徒歩で約10分位のところにあり住宅街の中に位置している。近くには県立高校も2カ所また、幼稚園・保育園などもあり交流がとても盛んである。建物内は広々としており内外共に整備されておりとてもきれいである。事業所としての目標をたてそれに対してスタッフ一同が情報の共有しながら意欲的に働いている。そのためか、ホーム内の雰囲気も落ち着いた空気が漂っており、ご家族からの信頼も厚い。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	家族への報告の中で「職員の異動についての報告」があがっていたが、現在は2ヶ月に一回定期的に広報誌を家族の方に出しその中で職員の異動についても報告・改善をしている。
重点項目	今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価に対しての意義を理解し全職員が取組みサービス向上に向けて、役立っている。前回の評価結果に対してもミーティング等で報告・点検をし改善に取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4,5)
	2ヶ月に一回定期的に開催し事業所の事業内容・行事の報告また、委員からは「ボランティアに対しての広報チラシ配布等の必要性」といった意見が出されている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族の代表の方が主体となりアンケート実施に取り組み意見を頂いている。面会時に職員が名札をつけていないので解りづらいといった要望が出ている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会にも加入しており、回覧板での情報をもとに草刈・掃除・集会などにも参加している。事業所で毎年実施しているフリーマーケットは地域との交流に一翼を担っている。

2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域の人々と共に生活する」「地域との交流を深め、積極的に支援する」といった地域との関係性を重要視した理念となっている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月に一回の合同会議やミーティングにおいて理念の共有化を図っている。また、いつでも確認できるよう事務所に掲示し、日頃から利用者に関する際にも理念の実践に向けた取り組みをしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しており、回覧板での情報をもとに草刈・掃除・集会に参加している。事業所で毎年実施しているフリーマーケットは、地域との交流の一翼を担っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、全職員が取り組んでまとめた。前回の評価結果に関してはミーティング等で報告・点検をし改善がされている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議は、2ヶ月に一回定期的に開催し、事業所の事業内容や行事の報告をしている。委員からは「地域住民にグループホームを知っていただくために、事業所に関するパンフレットのような資料がほしい」といった意見が出され、その資料については現在作成中である。</p>		
6	9				
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>2ヶ月に一回定期的に広報誌を家族の方に送っており、その中で職員の異動についても報告されている。また、家族の訪問時にはケース記録や出納帳なども確認していただいている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>事業所に対して家族などが意見や不満、苦情等を伝えやすい環境、関係を作るように努めている。また、家族代表の方々の協力でアンケートを実施し、家族の方から意見を頂く取り組みもしている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の異動も少なくし、顔なじみの職員によるケアをするように配慮している。新しい職員が入ったときには、利用者顔合わせをし、きちんと紹介するよう配慮している。</p>		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所としての年間の研修計画が具体的に作成されている。月4回の内部研修、外部研修に殆どの職員が参加しその都度報告もされている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	いわき地区グループホーム連絡協議会で実施している研修会には毎回参加し、同事業者と意見交換をしサービスの質の向上に努めている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員が利用者から料理を教えていただくなどして、介護する側、される側といった一方的ではない生活を共にしながら暮らせる関係作りに努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ライフサービス計画表によって本人の行動、意向、希望などをケース記録に残し、スタッフ全員が利用者の思いを把握しながら支援をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者、家族からの聞き取りを記録し、ライフサービス計画表を作成している。スタッフ全員で評価を行い会議で話し合いながら介護計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に介護計画の見直しを行うと共に、利用者の「体調」「思い」の変化についても、利用者・ご家族・関係職員が話し合い、現状に即した介護計画の見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている(小規模多機能居宅介護)	/	/	/

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医を入居の際に利用者や家族に希望の確認を行い、変更する際は利用者や家族と話し合い同意を得ている。緊急時や訪問診療の場合は、協力病院との連携を密にしている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者・家族の「思い」「意向」なども変化しており、機会を見つけては重度化や終末期に向けての話し合いをしている。また、かかりつけ医とも身体の様子に変化がある毎に話し合いを重ね全員で方針を共有している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者に対する職員の声かけを相手の気持ちを考えてさりげなく行っている。イニシャルを活用したり、記録の様式を変えたりと記入時についても配慮している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「家に帰りたい」・「お風呂に入りたい」という希望についても職員の都合でなく、その時の利用者の気持ちを最大限尊重した支援に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の嗜好品を確認するとともに、意見を聞きながら献立を作っている。また、食事の盛り付けや下膳を利用者と職員が一緒に行っている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	浴槽が2箇所あり、同じ時間に入浴が重なっても入浴が出来るため、好きな時間や回数に応じ、希望に添った入浴を支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	買い物やドライブなどを日課に取り入れている。また、行事として桃の節句・お花見・クリスマス会の内容等について利用者と相談しながら企画している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	一人ひとりの希望に合わせて、買い物やドライブをしている。また、散歩も希望に合わせて随時行うようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関に鍵をかけず、見守りや声かけをして利用者の状態を把握し、落ち着いた生活ができるように支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年間の避難訓練計画を作成し、地域の方々の協力体制の下(ホットラインの協力)毎月避難訓練を実施している。また、誘導方法も利用者の状態に応じた対応をしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの食事や水分の摂取状況を確認し、記録に残し健康状態を把握している。また、本人の希望により食事をする時間や場所にも配慮した支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間のほとんどが、畳敷きとなっており、居心地よく過ごせるよう配慮している。また、常日頃から湿度や温度にもなどにも配慮している。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みの家具や使い慣れたベッドやタンス、ラジカセ、テレビなどを置き、利用者が安心して過ごせるよう工夫している。		

 は、重点項目。

3 評価結果に対する事業所の意見

事業所名

記入担当者名 榎田 優子

評価結果に対する事業所の意見

特になし

評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目 を記入してから内容を記入してください。